

左岸を捲く。下って見上げると、登れそうな気がするので、ちょっと挑戦する。ホールドは細かいものの、シャワーで直登することができた。

小滝をはさんで今度は10mの滝。上半分をクライミングダウンしたあと、右岸のブッシュ帯に入り込んで下る。左岸にルートをとればクライミングダウンできたかもしれない。

このあとも小滝が続く。この沢は、下りよりも登りに使ったほうがおもしろかったようだ。やがて6m滝。上段は右岸をクライミングダウン。ちよつときつかった。下段はナメ状で、楽に下ることができた。

あとは小滝が続いて、10:30北沢本流に出る。

(記)

[タイム] ハの沢下降開始(9:55)→終了(10:30)

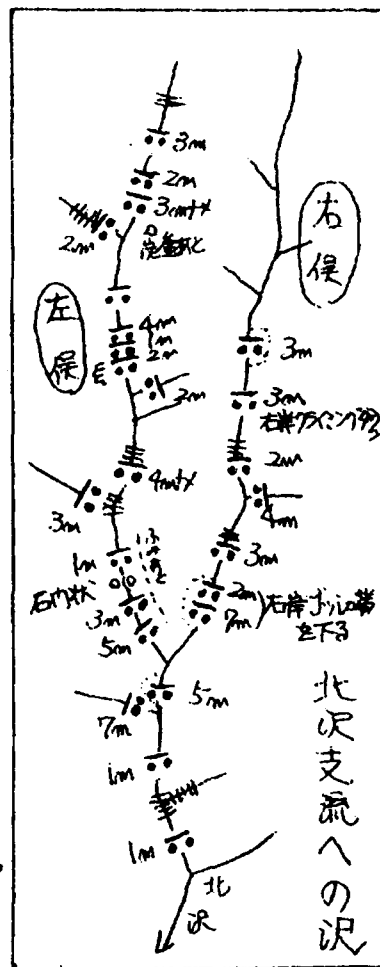
北沢支流への沢 右俣, 左俣

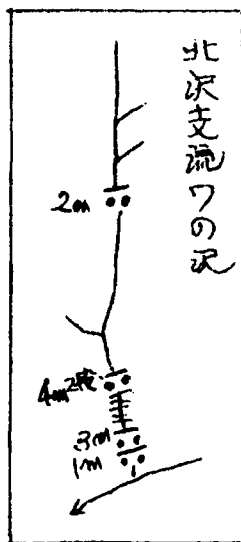
1988年9月3日

11:15下降開始。急な斜面を下って、5分程で沢に出る。花崗岩の沢である。期待が持てそう。

5分程下ると、3mの滝が出てきた。左岸を捲いて下る。ナメ状であり、登ることはできそう。このあとさらに小滝を1つ越えると、また3m滝。沢幅がせまくなっており、両岸に足を突っ張るようにしてクライミングダウンする。そしてそのすぐ先、突然足元が切れ落ちた感じで、2mと7mの連続する滝。上段の2mはクライミングダウンできるが、下の7mはとても無理。右岸のブッシュ帯を下る。下から見上げた感じでは、下部がちょっといやらしいが、上部はホールドも多く、登れるかもしれない。

このあとすぐに二俣。左俣は規模も小さいが、5mの滝が見えている。見逃す手はないと、遊行を始める。5mと3mの滝を続けて直登。す





るとその先にちょっと変わった地形が現れる。兩岸の岩がち
ようど石門のような感じで並び立ち、その中心に2mのC.S.
滝。左岸に跡跡(二俣のあたりから炭焼き釜あとまで続いて
いた)があったので、それをたどって越す。

このあとも適当に小滝が出てくる。いずれも割と簡単に直
登可能。12:25, 水も潤れたので、遡行終了とし、引き返し
て更に下降を続けることとする。

12:40二俣まで戻り、下降を続ける。すぐ5mの滝。右岸
を摺り下るが、この滝のすぐ下流で合流する支沢には7m
の立派な滝がかかっていた。ただ、水量の少ないことが残念
である。このあとすぐに北沢本流にでて、への沢(仮称)の下
降は終了。
(記・)

[タイム] への沢右俣下降開始(11:15)→左俣出合(11:55)→左俣遡行終了(12:25)
→右俣出合(12:40)→下降終了(12:50)→山本不動尊(13:30)

北沢支流ワの沢 1988年9月3日

10:40ワの沢(仮称)の遡行開始。出だしに小滝が3つ続けてかかる。いずれも
直登。花崗岩のフリクションがきいて、快適。ホールドも多い。ところがである。
その上は平凡。岩質も櫛倉破砕帯を構成する黒い岩に変わってしまった。11:10
遡行終了。左手の尾根に上がり、への沢(仮称)をめざす。(記・)

[タイム] ワの沢出合(10:40)→終了(11:10)

北沢支流力の沢 1988年9月3日

9:40, 今は棒杭のみとなってしまった何かの標識の立つ827m
独標(尾根上の小さなコブ。展望はきかない)上から、力の沢(仮称)めざして下降開始。急な斜面を下って5分程で沢に出た。
ところで、この沢は全く平凡。櫛倉破砕帯を構成する黒い岩層
の中を流れている間は、ほとんど滝がかからないという、南沢
流域でみられたのと同じ現象があてはまるようだ。1mの小滝

